

11・6労働者集会へ！

全学連（斎藤郁真委員長）書記局通信

2016年10月31日

No.419

Tel 03-3651-4861

mail_cn001@zengakuren.jp

http://www.zengakuren.jp/

沖大・不服申立審査委員会を徹底追及！

●赤嶺沖大自治会委員長より怒りのアピール

私が行った処分に対する不服申し立てにより、沖大の不服審査委員会が組織され10月27日に「意見陳述等行う機会」がつくられました。意見書や申し入れ書を一切受け取らず、学長に質問しにいけばキャンパスから暴力的に排除する大学で、処分された時だけ形式上の「意見陳述等行う」機会がつくられること自体が、ふざけています！ 案の定、不服審査委員会は意見など最初から聞く気もない、処分を既成事実化するためのものでしかありませんでした。すぐに意見陳述の場を終わらせようとする不服審査委員会を徹底弾劾し、委員会の腐敗を明らかにしたので報告します！

最も許せないことは、不服審査委員会が私に対して名前を名乗らず、追及しても一切答えなかったことです。大学の設けた不服審査委員が何故、堂々と学生に名前を名乗れないのか！ こんなことはありえないことです！ 自分たちは私の情報を調書として持っていながら、一切自らの立場を明らかにしない。委員会には外部からの人間を一人つけられるとしており、規則上では国家権力（公安警察など）を入れることも可能です。私の追及ですでに立場が明らかになっている副学長の奥山正剛は名前を言いましたが他の委員については「まあ、審査委員のメンバーということでもいいでしょう」とへらへら笑いながら名前を明かすことを拒否するという許しがたい対応をしました（他の審査委員は福祉文化学科の石原端子和事務職員の照屋洋子と割り出せました。外部委員の「弁護士」とされる人物は最後までわからず）。



奥山正剛



照屋洋子



石原端和

ですが、この沖大の許しがたい対応は、追い詰められた姿そのものです。沖大当局が今回の処分に何の正当性もないことを知っており、全社会的な非難を受けることを恐れ、必死に名前を隠しています。

奥山は私の問いに「意見を聞くだけで答える立場にない」と逃げ続けました。あげくの果てには、学自治会執行部選挙中の米軍属による女性殺害事件を繰り返してはいけないという訴えを「講義妨害」としていることをどう思うかという問いに「あなたの訴えている内容は処分の通知書に一言も書いていません。処分と関係ない」と言い張りました。処分通知書の立場で私の意見を切り捨てたのです。本当に不服審査とは名ばかりの処分のためのアリバイ作りでしかありません。

奥山は、「個人としては戦争は反対だ」となど詭弁をたれながら、「大学人としてこんなこと認めていいのか？」という私の追求に耐えきれず、「私の生き方をとやかく言われる筋合いはない」と言いはなちました。これが学生の反戦の行動や訴えを処分という形で弾圧している人間の言うことか！ どこまで傲慢で利己的なのか！ 奥山に象徴されるように自らの特権を守るため、学生にあらゆる矛盾を押し付ける今の大学人のあり方が大学の戦争動員や若者が職場で殺されている現実を作っています。

東大を卒業した女性が電通という大企業で過労死したことが全社会的な怒りをよんでいます。沖大当局は労働法の授業で「最低賃金以下で雇われてもクビになるかもしれないから、声を上げない方がいい」と学生を恫喝しています。

今回のことも含め、沖大で怒りを集め団結を強化し、ストライキの闘いで処分撤回を勝ち取っていきます！ 全国学生は、11・6全国労働者集会に集まろう！



パククネ打倒の時局宣言を発表する
淑明女子大の学生 10月27日、ソウル

最高裁上告棄却弾劾！

11月国際共同行動の爆発で市東さん農地死守を！ 三里塚闘争を闘う学生自治会の強化・拡大をかちとろう！

最高裁第3小法廷・大谷剛彦裁判長は、10月25日付で成田空港会社（NAA）による市東さん農地明け渡しを求める農地法裁判の上告棄却決定を下した。全学連現地行動隊は満身の怒りをもって徹底弾劾すると同時に、裁判所による農地の強制収用を反対同盟と固くスクラムを組んで体を張って阻止する決意だ。

反対同盟は27日、市東さん宅離れで記者会見を開き「決定にひるむことなく強制収用阻止へ断固として決起する」戦闘宣言を発した。市東さんは「どんな決定であろうと、この地でがんばる。もし農地に手を出すなら一丸となって体をはって闘う。土地を守る闘いで自分の生き方を貫きたい」とゆるぎない決意を毅然たる態度で表明した。萩原富夫さんは「同じ農民としてはらわたが煮えくり返る思いだ。第三滑走路や24時間化の問題で、騒音下住民の怒りと結びつき共に闘う。沖縄の闘いとも一つだ。我々は、一步も引かずに連帯した闘いを強化したい」と危機にたつ安倍政権と空港会社をさらに追い詰め、新たな三里塚闘争の爆発の中で勝利する決意を明らかにした。

今回の最高裁による棄却決定は、朝鮮戦争超切迫情勢の中で、三里塚闘争が体现してきた革命にむけた労農連帯—国際連帯の地平を叩き潰さないと一步も前に進むことができないという支配階級の悲鳴であり、危機の現れである。朝鮮半島をめぐる「核戦争か革命か」の激突はいよいよ最終的決着をかけた闘いへと突入している。韓国・民主労総による最大最長のゼネストがパククネ政権を瀕死状態に叩き込み、アジア革命の現実性を明々と指

し示している。動労千葉—反対同盟を軸とする労農連帯は関西生コンなど階級的労働運動と結びつきを強め、労働組合による三里塚闘争の新たな爆発を切り開かんとしている。国鉄闘争勝利に向けた三労組共闘と民主労総は11月国際共同行動を呼びかけ、反対同盟もこれに応え訪韓闘争に共に決起する。

「金・暴力・法律」といった国家・資本による恫喝と一步も引かずに半世紀にわたり「絶対反対」で闘い続けてきた三里塚闘争は、職場・キャンパスでの日々の日常を闘争化し、他力本願ではなく「実力闘争」で「闘えば必ず勝つ」という勇氣と確信を青年労働者・学生に与え続けてきた。全学連運動は、新自由主義大学と非和解に処分・逮捕を恐れず闘う実力闘争を復権した有朋寮闘争—法大闘争を経て、現下最大の反戦闘争となった京大闘争へと発展している。全学連は三里塚闘争の「不屈の精神」を胸にストライキの撃ち抜ける学生自治会の歴史的復権をかちとり学生自治会の力で市東さん農地実力阻止に向け闘う決意だ。同時に、戦争に向けた空港機能強化（24時間化・第三滑走路建設）粉砕に向け、全学連現地行動隊は、選挙闘争で培った1000万人の怒りと結びつく宣伝・扇動戦・拠点建設の闘いを取りわけ騒音下・予定敷地内住民に分け入り、蜂起的決起の最先頭で闘う決意である。「強制執行来るなら来い」「闘魂ますます盛んなり」の精神で闘う市東さんととことん団結し、11・6労働者集会—11月国際共同行動の爆発に向け共に闘おう！

（全学連三里塚現地行動隊・野地川）

国境をこえた団結で朝鮮侵略戦争と労働法制改悪阻止へ！

11・6全国労働者総決起集会

11月6日(日) 正午 東京・日比谷野外音楽堂

民主労総11・12労働者大会

11月12日(土) ソウル



<呼びかけ> 全国民主労働組合総連盟ソウル地域本部(民主労総ソウル地本)／国鉄千葉動力車労働組合(動労千葉)／全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部(関生支部)／全国金属機械労働組合港合同(港合同)